

近現代個人文書が有する価値とその編成

—都市プランナー・田村明の旧蔵資料を事例に—

奥津憲聖

【要旨】

本稿では、1968(昭和43)年から1981(昭和56)年にかけて横浜市の企画調整局長や技監を務めた田村明の個人文書が持つ歴史的価値を明らかにし、その編成のあり方を検討する。田村は革新市政期の横浜市をプレーンとして支えた人物であり、先進的な都市政策を立案して現在の横浜の都市構造の礎を築いた都市計画の専門家である。地方自治体の政治過程に参画した専門家の個人文書は、公文書の内容からは明らかにすることができない政策立案の背景を現在に伝える。特に都市計画家の個人文書には公的記録の不足を補う歴史資料としての価値が認められる。田村明個人が作成・収受・整理し、自宅で保管していた文書群は彼の没後、「田村明資料」として横浜市史資料室に寄贈された。本稿では同資料の構造分析を行い、彼が生涯にわたって展開した機能の連続性と組織性を明らかにした。その上で「都市プランナー」、「家族」、「個人」という3つのシリーズを設定し、同資料を編成した。さらに田村の経歴を反映させたサブシリーズと同資料に含まれる文書の内容に基づいたサブシリーズをシリーズ「都市プランナー」の下に並置させた。先行研究の編成論を踏まえながら、アーカイブズの内的秩序の構成理論に基づき提示した新しい編成手法は他の個人文書の編成にも応用することが可能である。

【目次】

はじめに

1. 田村明資料の価値
 - (1) 日本近代史研究と公文書・個人文書
 - (2) 横浜市政史研究上の価値
 - (3) 都市計画家の個人文書
2. 横浜市史資料室と田村明資料
 - (1) 横浜市史資料室の現状と課題
 - (2) 田村明資料の概要
3. 田村明資料の編成
 - (1) 田村明の生涯
 - (2) 田村明の諸活動と機能
 - (3) シリーズ設定の意図
 - (4) 検索手段の整備

おわりに